

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年2月21日】第114号



保護者のご理解に感謝

新型コロナウイルスのまん延は、残念ながらまだまだおさまらないようです。本校でも、原則として感染者が一人でも認められた学級では5日間の学級閉鎖の措置をとっています。学校医の指導に基づく学級閉鎖の措置ですが、学級内でのまん延を抑え、子どもたちの健康を守る効果を実感しています。

とはいえ、下校後に「明日からは学級閉鎖」ならまだよいのですが、状況により、午後からの授業を取りやめ、慌ただしく帰宅させざるを得ないという学級もありました。小学生の安全な下校を保证するため、学級全員の保護者とメールで連絡をとり、「一人帰り」か「保護者の引き取りまで学校での留め置き」を確認します。このような急な連絡であっても、お仕事ほかご多忙の中、保護者のどなたもが迅速にお返事をくださり、下校がつつがなく行われたことには、感謝しかありません。保護者と連絡がとれずに一人寂しく教室に残ってお迎えを待つ子どもがいたら…などという心配は杞憂にすぎませんでした。

保護者のご協力に感謝し、また学校への信頼にお応えできるよう、一層の感染予防措置を行うとともに、子どもたちの心や学びに学級閉鎖の悪影響が少しでもないよう注意深く教育を行ってまいります。

学習発表会は延期へ

2月25日(金)に予定されていた学習発表会。特別な出し物はせず、普段の子どもたちの学習の成果をご覧いただくものです。授業で学んだことをさらに調べて発表しようとする子ども、英語の詩を暗唱しようとする子ども、跳び箱を飛ばうとする子ども、と子どもたちも楽しみにしている様子でした。しかし、この状況で保護者にご来校いただくことはできそうもありません。そこで、オンライン配信の準備を始めたところでしたが、今度は学級閉鎖です。できれば、各学年・各学級の子どもたちがそろって学習発表会に参加できるようにしたいということから、開催日の延期を決定しました。新しい開催予定日は3月17日(木)、3学期の終業式の前日です。この日には子どもたちの笑顔がそろふことを願っています。オンライン(ライブ配信)とはなりますが、保護者の皆様にも楽しみにお待ちいただければ幸いです。

ツノゴマって？

農大稲花小では、子どもたちに実物を見せることを大切にしています。月替わりの昆虫標本や「学校だより113号」でご紹介した「食と農」の博物館からの糸車などに加えて、富士農場からのホロホロチョウの卵、小笠原諸島福德岡ノ場から沖縄本島に漂着した軽石なども届けられて注目を集めました。今、図書室前のスペースにあるのは、職員が栽培したツノゴマです。先端が鉤状で大きくカーブした角のような果実は、目を惹きます。別名、タビビトナカセ。踏んでしまった旅人はさぞ痛かったことでしょう。これからも、子どもたちの想像力を刺激する展示を、いろいろな方々の協力を得て続けていきたいと思えます。



「食と農」の博物館からの糸車



小笠原諸島福德岡ノ場から沖縄本島に漂着した軽石



ツノゴマ

春を待つ畑

農大稲花小の畑では今年度も、トマト、ナス、エダマメ、ダイコン、コマツナ……と栽培がおこなわれました。最後まで残ったのは東京都西多摩地方や埼玉県の一部で古くから栽培されてきたノラボウナ(セイヨウアブラナの1系統)です。2月15日(火)に3年生が収穫し、自宅に持ちかえりました。ご家庭でも、おいしく召し上がっていただけたことでしょう。

農大稲花小の畑も、これから春の農作業までしばらくお休みです。畑を休ませるといっても、実際には土作りの作業が間もなく始まります。3月になれば、春からの作付けの相談、種や苗の手配も開始です。

校長 夏秋 啓子